

令和3年度実践事例報告書

学校番号	家 01		学校名	静岡県立御殿場高等学校			担当教員名	田中悟子				
ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a	知財の重要性	<input type="radio"/> b	法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c	課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等)	<input type="radio"/> d	地域との連携活動	<input type="radio"/> e	人材育成(学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f	学校組織・運営体制
関連法(○印)	<input checked="" type="radio"/> a	特許・実用	<input checked="" type="radio"/> b	意匠	<input checked="" type="radio"/> c	商標	<input type="radio"/> d	その他()				
年間の取組内容			実施時期	該当する要素の番号		知財学習の要素						
①「生活産業情報」の教科書を用いた基礎学習			09	(6) (7) (11) (12)		1. 創造 創造し表現する 体験	<input type="radio"/> (1)	(1) 創造性を鍛える				
②地域の保育園児にアレンジした幼児服を作ろう			09～10	(1) (3) (6) (8)			<input type="radio"/> (2)	(2) 情報を利用する能力				
③デザイン画からドレスを作り披露しよう			10～01				<input type="radio"/> (3)	(3) 発想・技術を表現する能力				
④御殿場市の特産品を使用した御殿場らしいお弁当を作ろう			09～10	(1) (3) (4) (6)			<input type="radio"/> (4)	(4) 観察力を鍛える				
⑤							<input type="radio"/> (5)	(5) 技術を体系的に把握する能力				
⑥						2. 保護 財産として保護 ・尊重する意識	<input type="radio"/> (6)	(6) 商品や社会とのつながりの理解				
⑦							<input type="radio"/> (7)	(7) 保護・尊重する意識				
⑧							<input type="radio"/> (8)	(8) 技術等と権利の対応関係を把握する能力				
⑨							<input type="radio"/> (9)	(9) 手続の理解				
⑩						3. 活用 社会で活用する 知恵と行動力	<input type="radio"/> (10)	(10) 権利を活用する能力				
⑪							<input type="radio"/> (11)	(11) 産業や経済との関係性の理解				
⑫						4. 知識 社会制度の理解	<input type="radio"/> (12)	(12) 制度の学習				
⑬							<input type="radio"/> (13)	(13) 専門家、資格制度の関する知識				
令和3年度末における取組目標の達成見込	A	ほぼ達成(9割以上)		判 断 理 由	授業で教科書を用いた学習をもとに、知財のことを再確認することができた。幼児服やドレス作りから発送、技術を表現する能力を育てることができた。地域と連携し、地域の特性を生かしたお弁当の制作を通じた知的財産の教育が可能となった。							
	<input checked="" type="radio"/> B	概ね達成(7割以上)										
	C	やや不十分(5割以上)										
	D	あまり達成できていない(5割未満)										
実施方法	<input type="checkbox"/> 全校で実施 <input checked="" type="checkbox"/> 教科・学科で実施 <input type="checkbox"/> 特別活動で実施 <input type="checkbox"/> その他()											
本取組の状況 (なるべく具体的な数値やコロナ禍での取組等を含めて記載をお願いします)	・教科書を活用し、知財財産についての学習したことから、生徒の認識が高まった。その結果、特許権、意匠権、商標権における理解度が7割以上となった。											
	・地元企業と連携しながら、お弁当の商品開発を行い、知財財産の重要性を理解できた生徒は8割以上となった。											
	・幼児服やちょっとおしゃれなワンピースドレスの製図は、コロナの関係で専門学校からの講師を招くことができなかったが、現有の教員で、予算で買っていただいた書籍をもとに100%行うことができた。											
最も重視した取組又は成果のあった取組等	成果内容		商品開発のお弁当の制作では、地元企業と連携することで、知的財産に関する興味関心を養うことができ、商品化への行程を学ぶことができた。幼児服やワンピースドレスなどの衣装製作においては、形、色、素材等のデザイン画、意匠にあたることを理解することができた。									
	生徒・学生に見られた変化		知財の知識を活用しながら、商品化を行うまでの行程や衣装製作のなかで、学習に対する意欲的な取り組みをすることができ、より丁寧に製作しようとする気持ちが高まった。									
	取組番号[3, 4]		その根拠		商品開発では、何度も、企画を練り直したり、衣装製作においても、よりよい製作にしようと、本縫いの前に仮縫いし、試着をして本縫いするなどができた。							

今後の課題	商品開発や作品製作において、多くの時間を必要とする。また、コロナ禍の中、他県の専門学校から講師をお呼びすることもできず、県内の専門学校の講師の先生にもお断りされるなどがあったため、講師選出についても課題となる。
課題への対応	授業時間の確保と、専門的な講師の確保により、よりよい知財教育ができ、発展的な内容も可能であると考えられる。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>

「デザイン画からドレスを作り披露する」の取組について

生活創造デザイン科では、令和3年度の知的財産教育として、幼児服やワンピースドレス製作を実施しました。授業では、デザイン、色、素材などを含むファッションデザインがすべて意匠権にあたることを学ぶことができ、生徒の興味関心を深めることができました。生徒は、よりよいデザインにしようと試行錯誤し、デザイン画を何度も描き直し、それに伴う型紙を製作、さらに、素材を選び、作品製作に結びつけることができました。

コロナ禍でなければ、服飾系専門学校での授業見学や講師の先生を招いての授業を行いたいところでしたが、かなわず、現有の教員で対応しました。

来年2月中旬に市民会館において行う、製作発表会で、ファッションショーという形で披露する予定です。現在、生徒主体の委員会も発足し、初めての製作発表会をよりよいものにしようと頑張っています。

